

西緑地が楽しくなる本24

## 『はっばのあな』

ちいさなかがくのとも 2009年7月号  
高柳芳恵/ぶん おおたぐろまり/え



暑い日々が続くようになると、雑木林の低木は、大きな葉っぱで覆われてしまいます。3枚の小葉からなるつる植物「クズ」は、秋の七草にもなっている昔からおなじみの植物で

す。根からは葛粉がとれ、強い茎は繊維としても使われてきました。でも最近はそのように利用されることもなく、もっぱら生い茂る厄介者として扱われているのではないのでしょうか。

そんなクズの葉っぱを使って、子ども達と遊んでしまうのがこの本。クズの葉の穴を利用して、お面にして楽しむのです。でも、自分で穴をあけるではありません。すでにあいている穴をうまく利

用して、というのがミソ。

確かに、大きなクズの葉には、いろんな穴があいています。どうしてこんな穴が開いたのでしょうか。近寄ってよく見てみると、葉の上でせっせと穴を作っている虫が……。そうです、虫たちがこの食べでのある葉っぱを食べて、その食べあとがおもしろい形の穴をとっているのです。虫の種類によって、穴の様子も違います。この穴は、誰があけたのかな？と犯人探しをするのも楽しいですね。

ふろくの「えほんのたのしみ」では、誰がどの穴の犯人か、答えも教えてくれています。それだけでなく、あなたも犯人になれる！穴あけ葉っぱ鉄砲の鳴らし方も。

どこにでもあるクズの葉と友だちになれる本です。そして、クズを通して、虫たちともなかよくなれます。